



やまがた



バリスタ

杉浦 悠仁さん

「珈琲は、焙煎の仕方・お湯の温度・入れ方などで味の変化があるんです」とバリスタならではの感性で、自ら選んだ生豆を店内の大きな珈琲焙煎機にかけていきます。

「山形村に根付いていける店」を目指し、今日もこだわりの珈琲をお客さんに提供しています。
(2月6日『月と群青と珈琲』117)

働き姿

告知板

★ふるさと伝承館 歴史講演会★

昭和の「お嫁さん」事情について詳しくお話していただくほか、婚礼関係の資料の展示も行います。

日時 3月10日(土) PM1:30~
場所 ミラ・フード館ホール・ミラ
詳細は回覧チラシをご参照ください。

◆スポーツ団体連絡協議会 スポーツ講演会◆

指導者・保護者向けにメンタルや心理学についてお話していただきます。

日時 3月11日(日) PM2:00~
場所 トレーニングセンター
ふるさと大ホール
詳細は回覧チラシをご参照ください。

◆施設予約のお知らせ◆

平成30年4月1日以降の施設予約(トレーニングセンター、ミラ・フード館、ふれあいドーム、テニスコート、小学校体育館・グラウンド)が3月15日(木)から始まります。この日の予約受付のみ混雑緩和のため、下記のとおりとなります。

窓口: AM8:30~(ミラはAM9:00~)
電話: AM11:00~

詳細については、山形村教育委員会 ☎98-3155までお問い合わせください。



子どもからお年寄りまで楽しめるミニ運動会



自熱の攻防!



ナイスブロック!!

優勝 中原町
準優勝 上中原
3位 中北沖

1/28(日) 小坂分館

男子

優勝 四ツ谷上・中東(連合)
準優勝 上竹田中村
3位 原村上/唐沢下

女子

優勝 御判形・本郷西(連合)
準優勝 四ツ谷上・中東(連合)
3位 宮村/唐沢下

2/4(日) 上竹田分館

男子

優勝 上手村
準優勝 北村
3位 北中/南堀

女子

優勝 北中
準優勝 神明
3位 上手村/南堀

2/11(日) 下竹田分館

常会対抗 冬のスポーツ大会開幕!!

平昌五輪に先がけて、毎年恒例の冬のスポーツ大会が各分館で始まりました。これまでの結果をお知らせします。

来場者に(配られた記念誌。20年の歴史が凝縮されている。



現役生が元気なあいさつでお迎え。

鉢盛シニア20周年



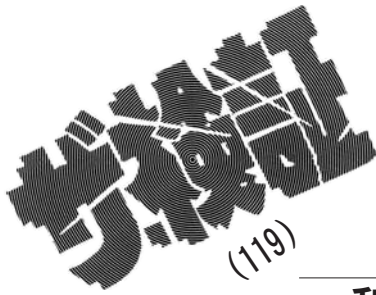
20年にわたって鉢盛シニアを指導されてきた竹野入俊良監督を囲み、功績を称える会も開かれました。

1月28日(日)に、ミラ・フード館2階大広間にて中学生硬式野球チーム「鉢盛シニア」の創立20周年記念式典が行われました。信越連盟理事長の末岡氏を始め、切磋琢磨してきた県内外16チームの代表者が式典に駆けつけてくださり、総勢100名を超える関係者がこの日を祝福しました。来賓祝辞で「信越リーグを代表するチームに育つことを期待しています」というお言葉をいただき、関係者一同、気持ちを新たにしていきました。

山すそ

20年前、娘の1歳の誕生日に開幕した長野オリンピック。昼食前につけたテレビではスキージャンプ原田雅彦選手が「船木い」と泣いていたつげ：スノーレッツ

▼私が館報に携わるようになった初めての冬、度重なる大雪の年にソチオリンピックが開かれ、あと2ヶ月で館報の仕事を引き退る年に平昌オリンピック。この館報がみなさんの手もとに届くころにはきつとたくさんのドラマと感動を目にしていることだろう▼ドラマと感動。そんなに大げさなものではないけれど館報作りの世界にも似たようなことが時々訪れる。ステキな写真が撮れた時、取材を引き受けてもらった時、文章を褒められた時。それは自己満足ではないかもしれないけれど、なんとも言えないうれしさが味わえるのだ▼私の知らなかつた世界に誘ってくれたF氏とAさんに感謝しつつ来月の校正会議で私の仕事は終了。これは全くの偶然ではあるが、その日は私の誕生日。「平凡でも豊かな人でいたい」私の新しい世界の始まりの日になる。



福祉バスを 考える

～利用者数から分かった村民ニーズ～

館報12月号(No.740)で「福祉バス」の記事を掲載したところ、反響があった。今回は福祉バスをもう少し深く掘り下げることで、福祉バスとはどういったものなのかを検証していきたい。

福祉バス月別利用者数

	1便 8:15発		2便 9:15発		3便 10:30発		4便(直行便) 11:26発		4便 11:50発		5便 16:00発		合計
	南	北	南	北	南	北	南	北	南	北	南	北	
11月	144	16	41	83	79	60	39	65	62	36	15	7	647人
12月	160	34	78	141	76	56	64	51	133	104	60	31	988人
1月	99	49	69	112	58	45	47	36	93	89	43	42	782人

次の表は、月別の福祉バス利用者数(保健福祉課調べ)である。

上の表の11月と12月の月別利用者数を比べてみると、12月には合計人数が大幅に増加していることが読み取れる。役場保健福祉課に確認したところ、故障中だったいちいの里のお風呂の修理が12月に終わり、入浴ができるようになったことが、福祉バス利用者増加の大きな要因の一つとして挙げられるようだ。確かに、75歳以上なら無料で入浴もできるし、まったくつるぐスペースもあるため、お風呂の利用者がいるのといないのは大きく利用人数が変動することも頷ける。

しかし、11月の合計人数から見てわかるとおり、入浴以外の目的でも、約650人が利用しているという事実だ。「店舗への移動手段」として「医療機関への受診」として利用されていることから、利用者にとっては生活から切り離せないものになっていると分かる。



自宅付近でこの看板をチェック!

保健福祉課 福祉バス担当者より

日頃福祉バスをご利用いただきありがとうございます。昨年10月よりアンケート調査や意見交換会を経て2台での運行体制に変更いたしました。

運行体制の変更から4ヶ月ほど経過し、「便利になった」との声もいただきましたが、「複雑な運行表で分かりにくい」や「前より乗車時間が長くなった」など利用者のみなさんからご意見をいただきました。

担当者といたしましても、今後みなさんのご意見を伺いながら、福祉バスが村民のみなさんの買い物や通院などの足として無くてはならない存在となれるよう運行したいと考えています。ご意見、ご要望などありましたら保健福祉課(左記)までお寄せください。

山形村保健福祉センター
いちいの里 内
山形村役場
保健福祉課 福祉係
☎ 97-2100

今回の検証を通して、お風呂の利用や買い物などで、福祉バスが利用者の生活に密着していることが分かった。既存の公共交通機関だけではカバーできない部分があり、あるため、なくてはならないツールである。

しかし、今後の福祉バスのあり方を考えた時に改善した方が良い点もいくつか見えてくるように感じた。午後の便が少ないことや、乗客が少ないのに運行している時間などがその例だ。上記の担当者のコメントにも思いが綴られているが、意見が上がった課題を含めて、検討する余地があるようにも感じた。

これだけ書いてはいるが、実は私もこの検証を始める前は最寄りの停留所がどこにあるのかわからなかった。「自分は使わないから」というスタンスではなく、「自分が使うことになったら」と考えることも大切であると改めて感じる良い機会となった。

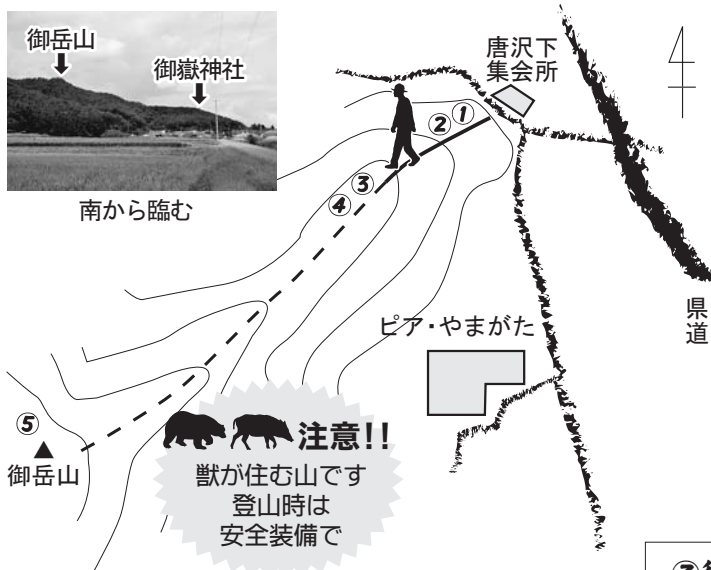
山ブラ

山形村をぶらっと散策

村内の名所、史跡、イベントなどを編集部スタッフの気の向くまま、思い付きでぶらっと散策。第4回は上竹田・唐沢下の御嶽神社へ、世話人の山中徳也さんを案内人に行ってきました。

御嶽神社

ピア・やまがたの裏山に御嶽神社がある。古川敏夫さん（上竹田）が自費出版した「唐猫さまと雨乞い」の巻末で、昭和初期の御嶽神社について、当時は行者もいて盛んであった様子が記されている。また、山中さん宅に伝わる話だと、松本市和田にもこの神社を崇拝する御嶽講があり、お祭の時は、松明を持った信者の灯りが和田から連なり、見事であったという。現在は地区に残る文化財として、世話人の4軒で維持・管理をしている。



①登山口

唐沢下集会所の真向かいに登山口がある。

②鳥居・不動明王

登山口からすぐの所に鳥居とその右下に不動明王が祀られている。



鳥居



不動明王

③御嶽神社

大正11年に建築。当時の寄付帖には唐澤山神社とある。

神殿内部の左右に霊神碑A、Bがあり、残念なことに2つとも倒れてしまっている。奥には御嶽山座王大権現と彫られた石碑Cと石祠D、E 2つが祀られている。



御嶽神社 神殿



左A



右B



C

D

E

⑤御岳山

各戸に配布される住宅地図に御嶽神社と御岳山の表記がある。藪や獣の心配のない昨年の12月に登頂してみた。

山頂には石碑らしきものはなかったが、昔は広場であったような感じがした。西へ下ると弁天池に出る。

この山頂で木曾御嶽山を敬い、祈祷や火渡りなど行われたのでは？という想像が膨らむ。



探検隊、山頂にて

④御嶽神社石仏群

神殿の左に約20体の石碑が祀られている。人型の霊神碑などユニークな石碑がある。



山ブラでは、これまで上竹田の西山にある史跡を4箇所紹介してきた。史跡同土は山道で繋がっていたようだ。その昔、この道は生活に欠かせないものであったのだろうが、現在は藪になってしまい、かつての姿は見られない。身近であった里山が、獣の住処となり近づけなくなってしまうのは残念である。史跡をもっと身近に親しめるよう道を整備すれば、気軽にハイキングを楽しめるし、観光資源にもなるのではないかとと思う。地権者等の問題もあり難しい面もあるだろうが里山の活用方法を考えてみてはどうだろうか。

きのえね様

2月1日(木)に上大池豆沢地域できのえね様のお祭りが行われました。

「きのえね(甲子)様」とは、十干(甲・乙・丙…)の最初の「甲」と、十二支(子・丑・寅…)の最初の「子」の文字を組み合わせた商売繁盛の信仰のお祭りです。地区の方々



はお詣りをした後、豆沢ミニ集落センターに集まり、お酒や料理を食べて談笑しました。

引き継がれてきた伝統的な民俗行事 皆さんはどれだけご存じですか？

道祖神祭 お八日様

2月4日(日)、中大池四常会(中村、野際、上手東、上手西)の女性による道祖神祭り『お八日様』が語り部の館で行われました。

伝統的に『事始め』の2月8日前後の休日に行われているお祭りで、参加者は上手東常会の辻にある筒井筒道祖神にお詣りをした後集まり、ビンゴゲームや歌などを楽しみなが親睦を深めていました。



道祖神の飾り付けに長年使われて来た提灯は老朽化したこともあり、今回新調されました。新調された提灯と共に、伝統的なお祭りが今後受け継がれていくことでしょう。

コショウをたく

2月8日(木)、中大池の家庭で厄払いのためコショウ(唐辛子)などをたきました。節分で追い出された鬼が再び家の中に侵入しないように煙を出して追い払うという意味もあるようです。



節分とセットで今後も受け継がれていってほしい風習の一つですね。

八日念仏

2月8日(木)、上大池豆沢では参加者全員が大きな数珠を左手で持つて「南無阿弥陀仏」と唱えながら右手で右方向に流して回していくという八日念仏が行われました。

祭事終了後は、体の悪い部位に数珠を当て、健康を祈願しました。



彌磨太鼓結成5周年 コンサート

1月21日(日)、山形村の太鼓チーム「彌磨太鼓」が結成5周年を記念して特別企画コンサートを松本市波田のアクトホールにて開催しました。300あ

る座席は、ほぼ満席となり、迫力ある演奏に会場は熱気に包まれていました。



(敬称略)

おめでた(子・親)

- 村上 碧彩・恭兵・下竹田
- 森田 満・裕貴・下竹田
- 智子・下竹田
- 柏木 大駕・健吾・中大池
- まりな
- 川上あかり・俊之・小坂
- 夢
- 古畑 衣柳・茂幸・小坂
- 里枝

下竹田マジックショー ステージに引き込まれました

1月28日(日)、下竹田公会堂にて、下竹田分館社会部ふれあい活動「マジシャン叶音マジックショー」が開催されました。寒い日ではありましたが、年配の方から親子づれまで約100名が集まった会場は、

叶音さんが繰り広げるトランプやリングを使ったキラキラしたショーと、それに引き込まれたみなさんのキラキラした瞳や歓声、拍手で熱気に包まれていました。最後にはお楽しみ抽選会もあり、大いに盛り上がりました。



おくやみ

- 船戸 一颯・昭彦・下竹田
- 春佳
- 中澤 瑞貴・和男・上竹田
- 平沢武三郎・89歳・中大池
- 住吉 宣保・83歳・小坂
- 岡田 千晶・39歳・上竹田
- 齊藤 善英・92歳・下竹田
- 平林サキ子・98歳・上竹田
- 堤 和雄・69歳・上大池
- 大池 久子・95歳・下大池

山形村の道祖神写真集
『やまがた村の道祖神』 発行

村内の道祖神を収めた写真集『やまがた村の道祖神』が、山形村史談会の編集の下に昨年10月に発行されました。村内にある双体道祖神27体、文字道祖神12体、その他1体の写真と、それぞれの道祖神の歴史や特徴について説明がされている貴重な資料です。



『やまがた村の道祖神』
発行によせて

山形村史談会 会長
上條 光男(中大池)

ふるさと学習での活用を願って小学校にも寄贈され、国立国会図書館の蔵書としても収められています。トレーニングセンター内の図書館にも置かれており、村民の皆さん是非とも一度手に取ってご覧いただければと思います。

山形村は石造文化財の宝庫として広く世に知られ、1,300体余の石造物が確認されており、特に道祖神は40体を数えます。中でも25体余の「双体道祖神」の大半は山形村が高遠藩に属していた時代に、高遠石工の手により作られた名作が多いと言われており、村の誇りうる貴重な財産であります。

一方、近年の村の発展は目覚ましく喜ばしいことでもあります。土地開発に伴い企業進出、家屋の新築や、道路の整備等により、道祖神は移動・破損・盗難の危機に晒されており、先人の残したこの貴重な歴史の遺産を守るために、村民に一層のご理解をいただき、また未来を担う子どもたちの「ふるさと学習」での活用を通じて、地域に愛着と誇りを持った人材育成に役立つことを願いつつ後世に引き継いでいきたい。こんな願いを込めて史談会会員の理解と協力のもと「長野県の元気づくり支援事業」を活用させていただき本書を作成することが出来ました。

本事業に際し特別のご指導を賜りました、山形村及び教育委員会をはじめ、全ての関係各位に心から感謝申し上げます。



みんなの人権 ⑦

頼られ、ほめられ、子(ひと)は育つ—自尊感情の高まる瞬間①
～「居場所づくり」から「要る場所づくり」へ—「U高自然塾」に学ぶ



◇3月を目前にして、地域も職場も、学校も、平成29年度のまごめんの時期を迎えています。山形っ子の一年間を振りかえってみても、彼らの目が生き生きと輝き、地域の大人たちも元気をもらった場面がいくつか思い浮かびます。◇山形小6年生が、地域の人の支援を受けながら学んだ「ふるさと学習」。そこで発見した「村のお宝」をポスターやパンフレットにまとめて、地域住民や、修学旅行先で出会った観光客にアピールした。あの時の子どもたちの緊張と充実感に満ちた顔。また、平和のありがたさやふるさとへの思いを熱唱してくれた山小音楽会。ピリツとした明るさを醸し出して、周りの大人たちに元気をくれた「わくわくクラブ」や運動会など。そんなことを思い出しながら、子どもも、大人も共通して、生き生きと「目が輝く瞬間」が、案外共通した場面に現れることに気付かされます。◇かつて勤務した東信地方の専門高校には、農業系学科の「環境緑地科」という専門学科がありました。この学科では、「U高自然塾」なる地域開放講座を開講していた時期があります。自校に併設されていた広大な学校林や樹木見本園、あるいは近くの貯水池などを利用して、森や樹木あるいは鳥類などの観察会を催して、地球環境の問題を考え合う、という趣旨の塾でした。◇塾生は、地域の小学生からお年寄りまで幅広い層。講師役は環境緑地科の現役高校生。最初の回では、教える立場にありながら、満足に塾生の前で話すこともできなかった生徒たち。ですが、教師や、地元の林業関係NPOのメンバー、信州大学の専門家などの温かくも厳しい指導や助言のもと、現地研修やプレゼン練習を繰り返すことで、回を重ねる毎に、講師役として大きな自信をつけていきました。◇全6回の講座が終了した閉塾式で、生徒にとっては「おじいちゃん」のような存在だった受講生Mさんが、温かな「御礼の言葉」を述べて下さいました。◇「U高自然塾」に参加して、木の名前や鳥の鳴き声を聞き分けられるようになったこともうれしかったけれど、それ以上に、孫のようなU高生たちが、一回目、二回目と私たち塾生の教師役や案内役として奔走するうちに、自信と充実感が瞳が輝き、たくましく成長していく姿が最も嬉しく、感動しました。◇自分たちの学んだ技術や心をフルに発揮して活躍する子どもたち。地域の方々にも頼られ、ほめられ、自信と自己充実感・自尊感情を高めていく子どもたちの目の輝き。そこには、地域で「共に生きる」喜びの分かち合いがあり、「人権教育の不易の部分」を超えて「教育の原点」を垣間見た思いがありました。そして、わが村でも、山形っ子のみならず、大人にとっても、家庭で、職場で、地域で、「居場所の保障」だけでなく、「このよきな『要る場所づくり』」の必要性を強く感じている頃です。

(H30年6月 M・H記)



海外でのんびりと

中村佐重喜さん
みどりさん
(上竹田)



絆

KIZUNA

44年前、京都の伏見稲荷で運命的な出会いをしたお二人。関西方面で仕事をしていた佐重喜さんは観光に訪れていたみどりさんに一目ぼれ。「とてもかわいらしかった」と回想する。一方、みどりさんは「パンチパーマの遊び人っぽい人だな」という印象だったという。佐重喜さんの熱烈なアタックから遠距離恋愛が始まり、半年後、ゴールイン。結婚を機に地元山形村に戻り有限会社サエキ美装を設立し、43年目を迎える。3年前に長男の健太さんが後を継いだ。「後継者がいないと言われるこの時代に息子が継いでくれて良かった。さらに息子から孫へと100年続いてほしい」と願う。二人は、趣味も各々楽しんでる。佐重喜さんの趣味は、ゴルフ・スポーツジム通い・英会話。山形村のシニアゴルフ大会（佐重喜杯）の開催もしている。英会話が上達したら夫婦で2、3ヶ月海外で過ごしたいというみどりさんの趣味は、着物を裂いてバッグやラグなどを作る裂き織りとヨガ。14年続けているヨガでは助手の免許を取得した。お互いを理解しているからこそ、趣味も二人の時間も充実しているに違いない。

西尾 茉桜さん

上竹田

(高1・ふたご座)



横川 瑛翼さん

上竹田

(中2・さそり座)

私は英語が得意です



得意な教科は体育です



高校に入ってから始めたダンスに夢中の茉桜さん。友だちと作り上げることが楽しいそうで、文化祭での発表や松本市のダンスイベントに参加するために、放課後松本市の施設を借りて頑張っています。将来は、洋服関係の仕事がしたいとのこと。「大きな目標だけど、自分のブランドを作りたい」と、夢を語ってくれました。

自慢できることは、どこでも寝られることと、たくさん食べられることだそうです。きつと激しいダンスがそうさせているのでしょね。

今、一番夢中になっていることはサッカーで、「保育園のころからやっています」という瑛翼さん。現在、夏の大会でいい成績を残そうと部活を頑張っています。ボールを落とさず蹴り続ける『リフティング』は小6の時点で3,000回を軽く突破。今はトリックを混ぜながら挑戦しています。「体を大きくするために食事にも気を使っています」というくらい頭の中はサッカーでいっぱい。

将来の夢もやはり「サッカー関係の仕事に就きたい」とのことでした。